

2024. 5. 25

独占取材 ワクチン接種後、体調不良続く子ども

時はコロナ禍。「思いやりワクチン」と題して、テレビやネットなどさまざまな媒体で接種が推奨された。日本小児科学会は子への接種を躊躇する保護者に対して「子どもたちにも是非ワクチンを受けさせてあげてください」とつたうほど、子どもへのワクチン接種も当然という風潮が高まった。疑う余地もない状況の中、接種後、何年も苦しんだ少女たちがいる。副反応の実態について紹介する。

(加藤有里子)

「息できない」と玄関前で硬直

(接種当時、中学1年の女子)

政府や行政から「思いやりワクチン」が推奨される中、2021年10月半ばに接種したのはBさんの中学1年(当時)の娘。Bさんは「同級生など周りで接種者が多く、思いやり

ワクチン」としてつたわられていたので何の疑いもなく接種させた」と話す。

「自宅に帰ってきた娘は、息ができない。寒い。足の裏が氷を張ったみたいに冷たい」と訴え、玄関に倒れこみ動かなくなった。「顔色は非常に悪く、心臓が止まったが、足の裏は全く冷たくなかった」(Bさん)。

かかりつけ医やワクチンを接種した診療所の医師は、様

子見と言いつつ娘が悪寒で震え、10秒も立っていられない状態に病院側も不安を感じたのか、医療センターに行くように言われた。

精密検査は異常なし

総合病院では

「心の問題」と診断

心臓、エコー、血液検査は異常なし。反射検査も行ったところ、こちらも問題は見られなかった。次に、母子センターで受診。歩くことが困難なことから松葉杖の貸与はできたものの、「心の問題」と言われ

るなど、母(らち)があかない状況に悩んでいた。

インターネットやツイッ

ターなどで似た症状がないか調べる中、Bさんがたどり着いた先は長尾クリニック(尾崎市)だった。「前身・後進歩行するや、長尾和宏院長当

時(が)明らかに異常ではないか」と言ってくれた(Bさん)。「ワクチン後遺症」と初めて診断され、治療を受けたりサプリを服用したりして、回復に向かうことができた。

現在、高校1年生になり、接種前の生活に戻ったとは



すり足で歩くBさん(長尾医師が撮影)

言わないまでも、徐々に症状は良くなってきている。ただ、無理をすると慢性疲労になるため体に負担をかけないよう注意しているという。Bさんは「後遺症とは気付かず、突然の体調不良に見舞われている人がいるはず。少しでも

知ってもらいたい」と熱く訴えた。

Bさんはワクチン被害救済申請を行い、審査待ちだ。

週刊大阪日日新聞のウェブサイトでは、別の児童のケースも掲載しています。
(<https://weekly-osakanichi.net/>)